

# 社会資本総合整備計画 事後評価

計画①：風格ある緑豊かな環境共生都市・福岡

計画②：安全・安心を支える緑づくり

計画③：福岡市公園施設の長寿命化の推進

## 目次

資料 6 - 1	事後評価シート
資料 6 - 2	事後評価説明資料

令和 6 年 1 2 月  
福岡市 住宅都市局  
公園部 政策課

# 社会資本総合整備計画 事後評価

風格ある緑豊かな環境共生都市・福岡

## 事後評価シート

令和6年12月  
福岡県福岡市

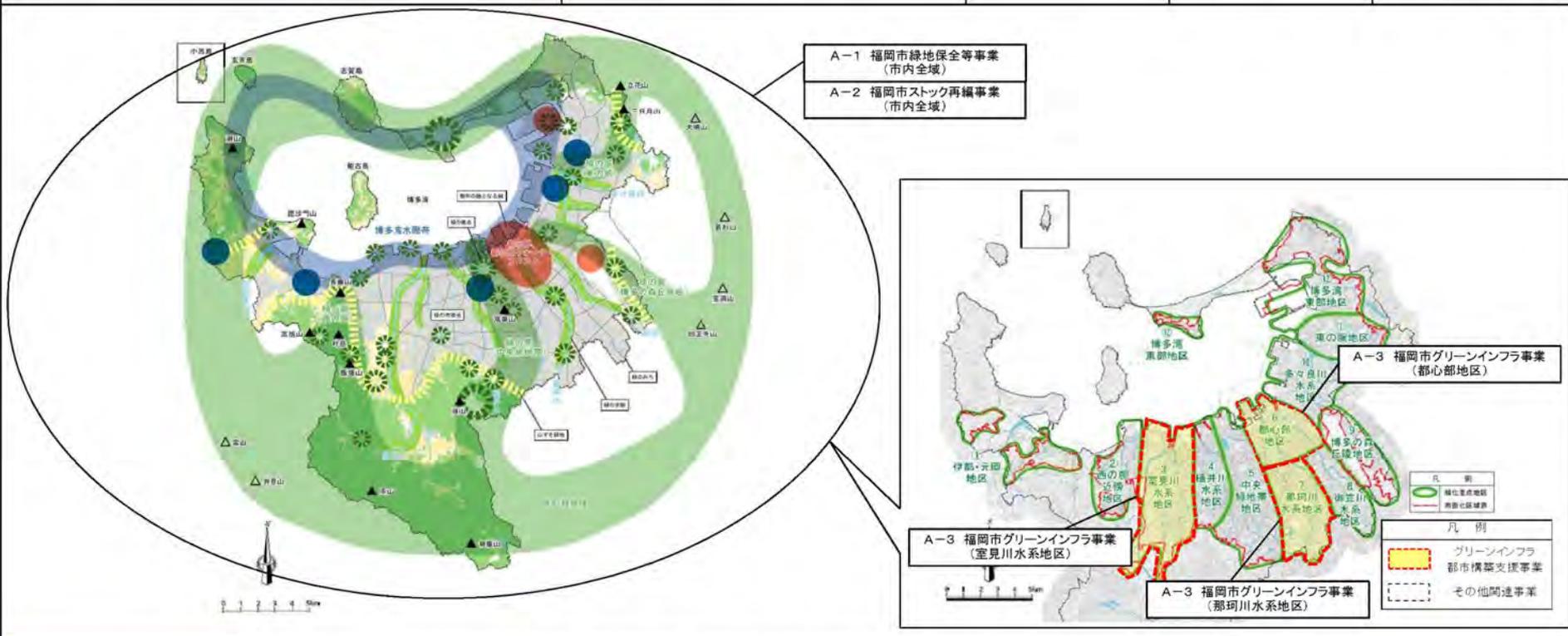
様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	福岡県	市町村名	福岡市	計画の名称	風格ある緑豊かな環境共生都市・福岡		
計画期間	令和2年度～令和6年度	事後評価実施時期	令和6年度	全体事業費	828百万円	国費率	1/2

		要素事業名					
1)事業の実施状況	対象事業	A 基幹事業	○福岡市緑地保全等事業 ○福岡市グリーンインフラ事業 ○福岡市ストック再編事業				
		B 関連社会資本整備事業	-				
		C 効果促進事業	-				
		その他関連する事業	-				
	進捗状況	A 基幹事業	要素事業名	事業内容(延長・面積等)	事業進捗(令和6年度末時点)	次期計画	
			○福岡市緑地保全等事業	特別緑地保全地区6地区用地取得、1地区(緑地)施設整備	一部完了	実施予定	
			○福岡市グリーンインフラ事業	1公園用地取得、9路線街路樹整備、5公園施設整備	一部完了	実施予定	
		○福岡市ストック再編事業	3公園施設整備	一部完了	実施予定		
	B 関連社会資本整備事業						
	C 効果促進事業						
	その他関連する事業						
2)事業の効果発現状況	成果目標の達成状況 ※算定対象	指標名	当初現況値	目標値	実績値	結果の分析及び目標値と実績値に差が出た要因	
		福岡市域における緑被面積	18,920ha	18,920ha	18,984ha ※ R4年度	緑地保全や公園・街路樹整備等の取り組みにより、目標値を達成した。	
		身近な地域において緑が豊かであると感じている市民の割合	30%	55%	31.0% ※ R5年度	市全域および都心部における緑被面積は増加しているものの、「身近な地域において緑が豊かであると感じている市民の割合」は目標値を達成できなかった。身近な地域の緑とは、身近に緑地や公園、街路樹があるか否かによって回答が左右されるものであることから、公園整備等は進めているものの、アンケートの割合は横ばいとなっていると考えられる。	
	福岡都心部における緑被面積	97ha	105ha	100ha ※ R4年度	当初現況値を上回っており、都心部での公園や街路樹の整備などにより、一定の成果が出ていると考えられるものの、目標値には達成できていない。引き続き、公園・街路樹整備に取り組みとともに、令和5年2月に始動した「都心の森1万本プロジェクト」を推進することで、みどり豊かな都市空間の創出に取り組む必要がある。		
	成果目標以外の要素事業の効果発現状況 (定性的な効果)	<ul style="list-style-type: none"> <li>福岡市緑地保全等事業について、都市の中に残る緑地を保全することにより、良好な景観と都市環境を創出。</li> <li>福岡市ストック再編事業について、小規模公園の統廃合により公園機能を集約し、公園利用者の使い勝手を向上。</li> <li>福岡市グリーンインフラ事業について、道路や河川工事に合わせて、街路空間や川沿いに緑のネットワークを形成。</li> </ul>					
3)その他	今後の方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>福岡市緑地保全等事業について、引き続き、永続的に良好な緑地を確保していく。</li> <li>福岡市ストック再編事業について、引き続き、市民ニーズに合わせた身近な公園を整備していく。</li> <li>福岡市グリーンインフラ事業について、引き続き、公園・緑地や街路樹整備により、自然環境が有する多様な機能を最大限に活用し地域課題の解決を目指していく。</li> </ul>					

「風格ある緑豊かな環境共生都市・福岡」の成果概要

事業の目的	成果指標	当初現況地	目標値	実績値
本市の「緑」に関する総合計画である「福岡市新・緑の基本計画」(平成21年5月策定)に基づき、福岡市域における緑の面積の総量を維持するとともに、地元参加等の手続を経た公園ストックの再編だけでなく、グリーンインフラとしての活用を推進することで、市民の豊かな生活空間や、市民が身近な緑や公園に親しみを持てるような、風格ある緑豊かな環境共生都市・福岡を創造する。	①福岡市域における緑被面積	18,920ha	18,920ha	18,984ha ※R4年度
	②身近な地域において緑が豊かであると感じている市民の割合	30%	55.0%	31% ※R5年度
	③福岡都心部における緑被面積	97ha	105ha	100ha ※R4年度



主な事業効果

- ・緑地保全事業については、緑地保全や新たな公園整備により緑を創出することで、福岡市域における緑被面積の総量を維持することができた。
- ・ストック再編事業については、地域のニーズを踏まえてリニューアルなどすることで、市民が身近な緑や公園に親しみを持てるまちづくりを進めた。
- ・グリーンインフラ事業については、公園や緑地、街路樹などの整備において、自然環境が有する多様な機能を活用し、地域課題の解決を図った。

# 社会資本総合整備計画 事後評価

安全・安心を支える緑づくり

## 事後評価シート

令和6年12月  
福岡県福岡市

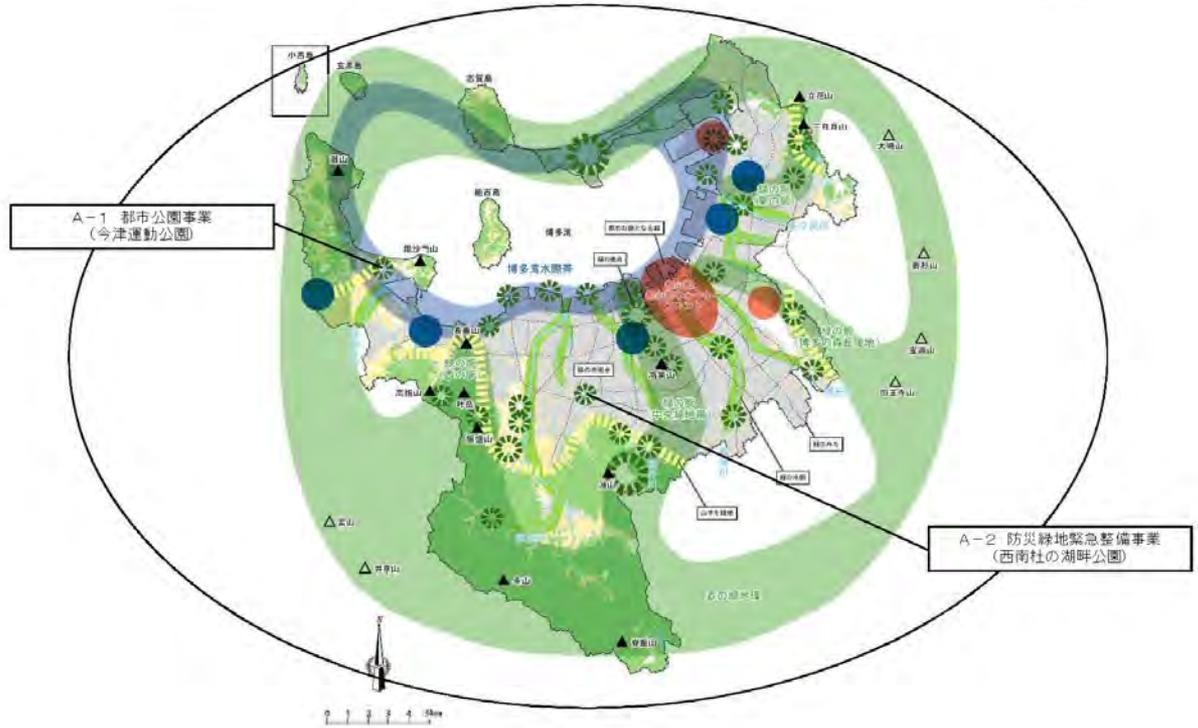
様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	福岡県	市町村名	福岡市	計画の名称	安全・安心を支える緑づくり(防災・安全)		
計画期間	令和2年度～令和6年度	事後評価実施時期	令和6年度	全体事業費	99百万円	国費率	1/2

1)事業の実施状況	対象事業	要素事業名				
		A基幹事業	○都市公園事業(今津運動公園) ○防災緑地緊急整備事業(西南社の湖畔公園)			
1)事業の実施状況	対象事業	B関連社会資本整備事業				
		○効果促進事業	-			
		その他関連する事業	-			
		要素事業名	事業内容(延長・面積等)	事業進捗(令和6年度末時点)	次期計画	
	進捗状況	A基幹事業	○都市公園事業(今津運動公園)	野球場整備等	完了	-
			○防災緑地緊急整備事業(西南社の湖畔公園)	都市開発資金償還	完了	-
		B関連社会資本整備事業				
		○効果促進事業				
その他関連する事業						
2)事業の効果発現状況	成果目標の達成状況 ※算定対象	指標名	当初現況値	目標値	実績値	結果の分析及び目標値と実績値に差が出た要因
		地域の防災対策が充実していると感じる市民の割合	39%	50%	-42.8% ※RS年度	「地域の防災対策が充実していると感じる市民の割合」について、目標値には達していないものの、計画当初よりも38ポイント増となっており、着実にアンケートの割合を伸ばしている。地域の防災対策とは、公園整備だけでなくソフト面での整備も含まれるため、今後はソフトと一体となった事業展開が必要。
2)事業の効果発現状況	成果目標以外の要素事業の効果発現状況 (定性的な効果)	・有事の際に避難場所となる公園において、平時における公園緑地空間の確保および創出。				
	3)その他	今後の方針	・有事に備え、防災・減災に資する公共空間の維持および管理運営に努める。			

「安全・安心を支える緑づくり(防災・安全)」の成果概要

事業の目的	成果指標	当初現況地	目標値	実績値
緑による都市の防災、減災対策を推進するため、災害時等に避難場所となる公園・緑地の整備を進める。	①地域の防災対策が充実していると感じる市民の割合	39%	50%	42.8% ※F5年度



<p>主な事業効果</p>	<p>・広域避難場所に指定されている大規模な公園の整備などを行うことで、緑による都市の防災、減災対策に資する公共空間を創出することができた。</p>
---------------	--

# 社会資本総合整備計画 事後評価

福岡市公園施設の長寿命化の推進

## 事後評価シート

令和6年12月  
福岡県福岡市

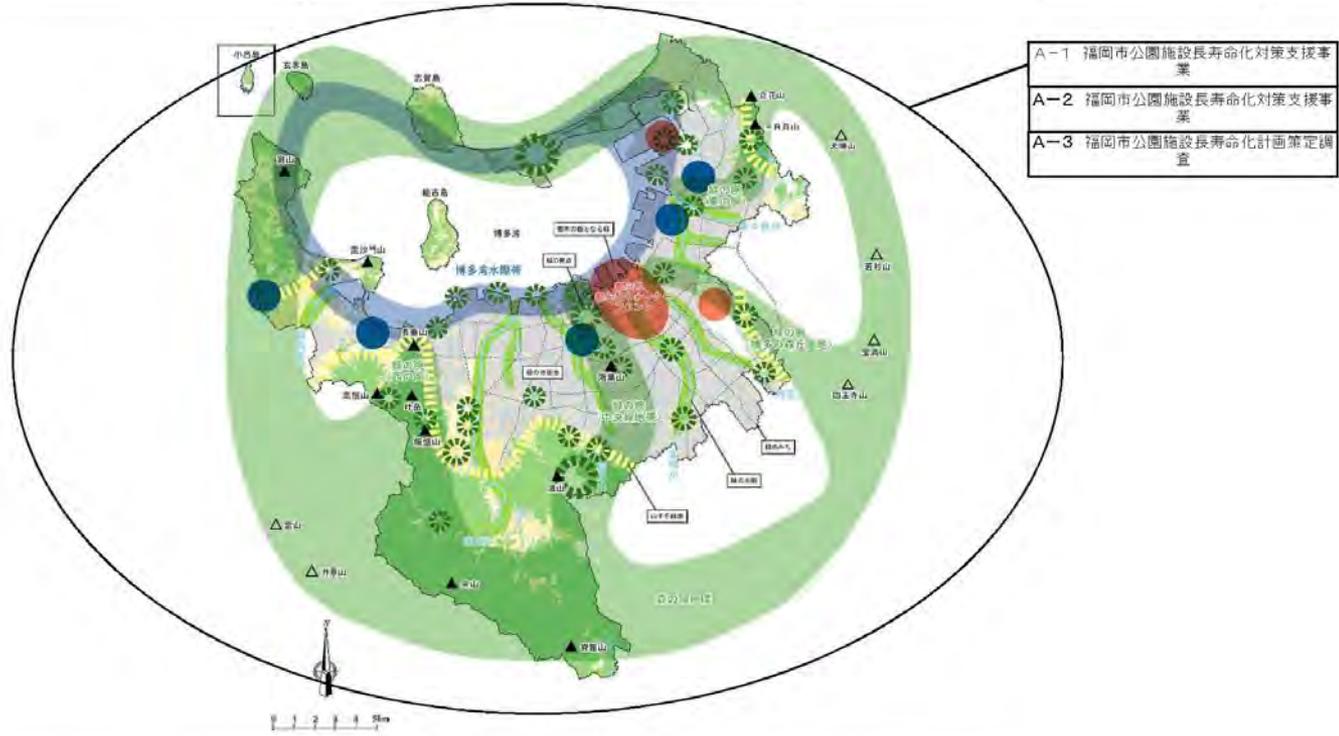
様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	福岡県	市町村名	福岡市	計画の名称	福岡市公園施設の長寿命化の推進(防災・安全)		
計画期間	令和2年度～令和6年度	事後評価実施時期	令和6年度	全体事業費	1,705百万円	国費率	1/2

		要素事業名					
1)事業の実施状況	対象事業	A基幹事業	○福岡市公園施設長寿命化対策支援事業 ○福岡市公園施設長寿命化対策支援事業(5か年老朽) ○福岡市公園施設長寿命化計画策定調査				
		B関連社会資本整備事業					
		C効果促進事業					
		その他関連する事業					
	進捗状況		要素事業名	事業内容(延長・面積等)	事業進捗(令和6年度末時点)	次期計画	
		A基幹事業	○福岡市公園施設長寿命化対策支援事業	施設改修、遊具更新(延べ938公園)	一部完了	実施予定	
			○福岡市公園施設長寿命化対策支援事業(5か年老朽)	施設改修(今津運動公園、椛原運動公園)	完了	-	
○福岡市公園施設長寿命化計画策定調査	計画更新(H26～R5 ⇒ R6～R15)		完了	-			
	B関連社会資本整備事業						
	C効果促進事業						
	その他関連する事業						
2)事業の効果発現状況	成果目標の達成状況 ※算定対象	指標名	当初現況値	目標値	実績値	結果の分析及び目標値と実績値に差が出た要因	
		地域の公園で子どもが安心して遊べると感じている市民の割合	67%	75%	73% ※R5年度	施設設置から年数が経ち更新期を迎えるなど、改修すべき公園施設が増加している中で、予算の削減もあって一部の公園施設(こ)が着手できていない状況であることから、目標値に達することはできていないが、計画当初よりも6.0ポイント増となっており、目標値以上の公園数の改修に取り組むなど、着実な公園施設の改修により、一定の成果が出ているものと考えられる。	
	公園施設の改修を行う公園	0公園	900公園	938公園	着実な公園施設の改修により、目標値を達成した。		
	成果目標以外の要素事業の効果発現状況 (定性的な効果)	・福岡市公園施設長寿命化対策支援事業について、施設改修や遊具更新により、安心して利用できる公共空間を創出。					
3)その他	今後の方針	・引き続き、公園施設長寿命化計画に基づき、公園施設の計画的な改修および更新を行うことで、身近な公園の安全性の向上を図る。					

「福岡市公園施設の長寿命化の推進(防災・安全)」の成果概要

事業の目的	成果指標	当初現況地	目標値	実績値
誰もが安全・安心に公園を利用できる環境整備を行うため、公園施設長寿命化計画を踏まえた既存施設の計画的な維持管理・更新を図る。	①地域の公園で子どもが安心して遊べると感じている市民の割合	67%	75%	73% ※F05年度
	②公園施設の改修を行う公園	0公園	900公園	938公園



主な事業効果	公園施設長寿命化対策支援事業については、公園施設長寿命化計画に基づく施設改修や遊具更新等を行い、安心して遊べる公共空間を創出した。
--------	---

# 社会資本整備事業事後評価について

計画①:「風格ある緑豊かな環境共生都市・福岡」

計画②:「安全・安心を支える緑づくり(防災・安全)」

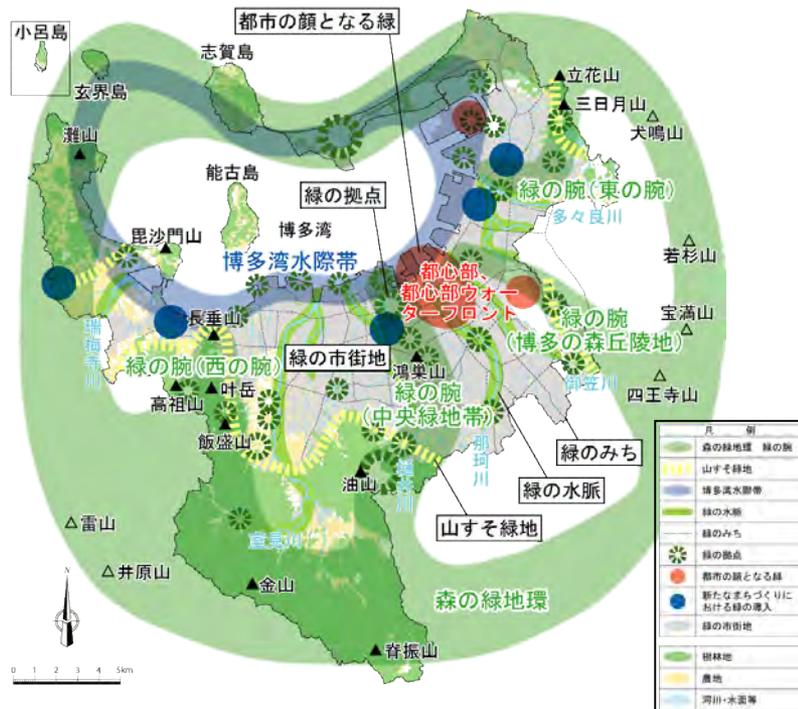
計画③:「福岡市公園施設の長寿命化の推進(防災・安全)」

令和6年12月  
福岡市 住宅都市局  
公園部 政策課

# 福岡市の公園整備について

# 福岡市のみどりについて

## ■ 福岡市の緑の将来像図



## ■ 福岡市の緑被面積 (R4)

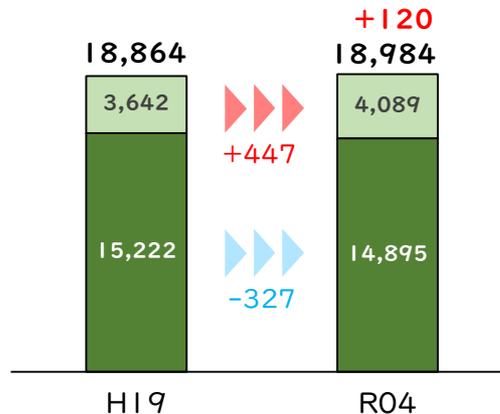
(単位:ha)

### 創出系の緑(+447)

- ・公園緑地等 : 1,636 → 1,891 (+255)
- ・その他 : 2,006 → 2,198 (+192)

### 保全系の緑(-327)

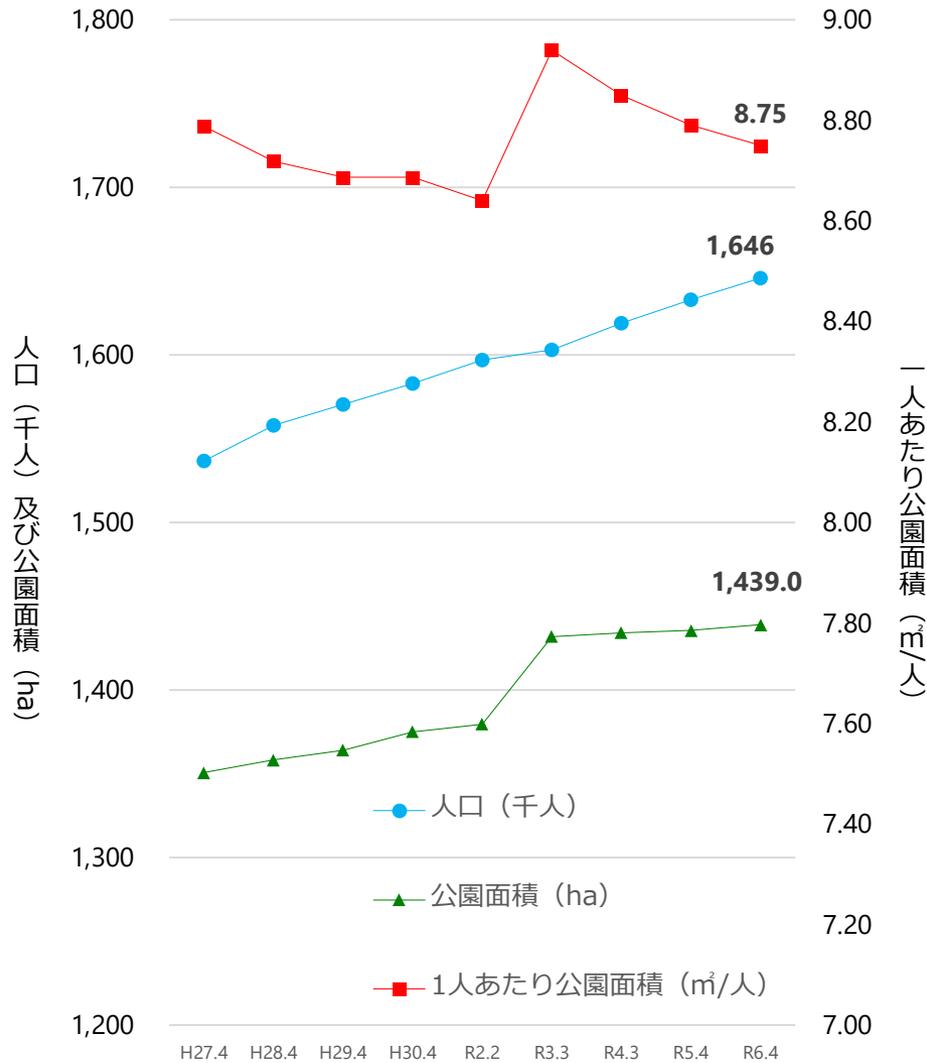
- ・森林 : 11,178 → 11,313 (+135)
- ・農地 : 2,973 → 2,469 (-504)
- ・河川水面等 : 1,071 → 1,113 (+42)



- ・ 福岡市は海と山に囲まれ、市街地がコンパクトにまとまった都市である。
- ・ 緑の基本計画では、開発等による農地の減少などによって、緑が失われやすいことを踏まえ、できる限り緑の減少をくいとめ、減少した分は創出することで、緑の総量を減少させないことを目標としている。

# 福岡市の公園面積について

■ 福岡市の人口、公園面積、一人あたり公園面積の推移

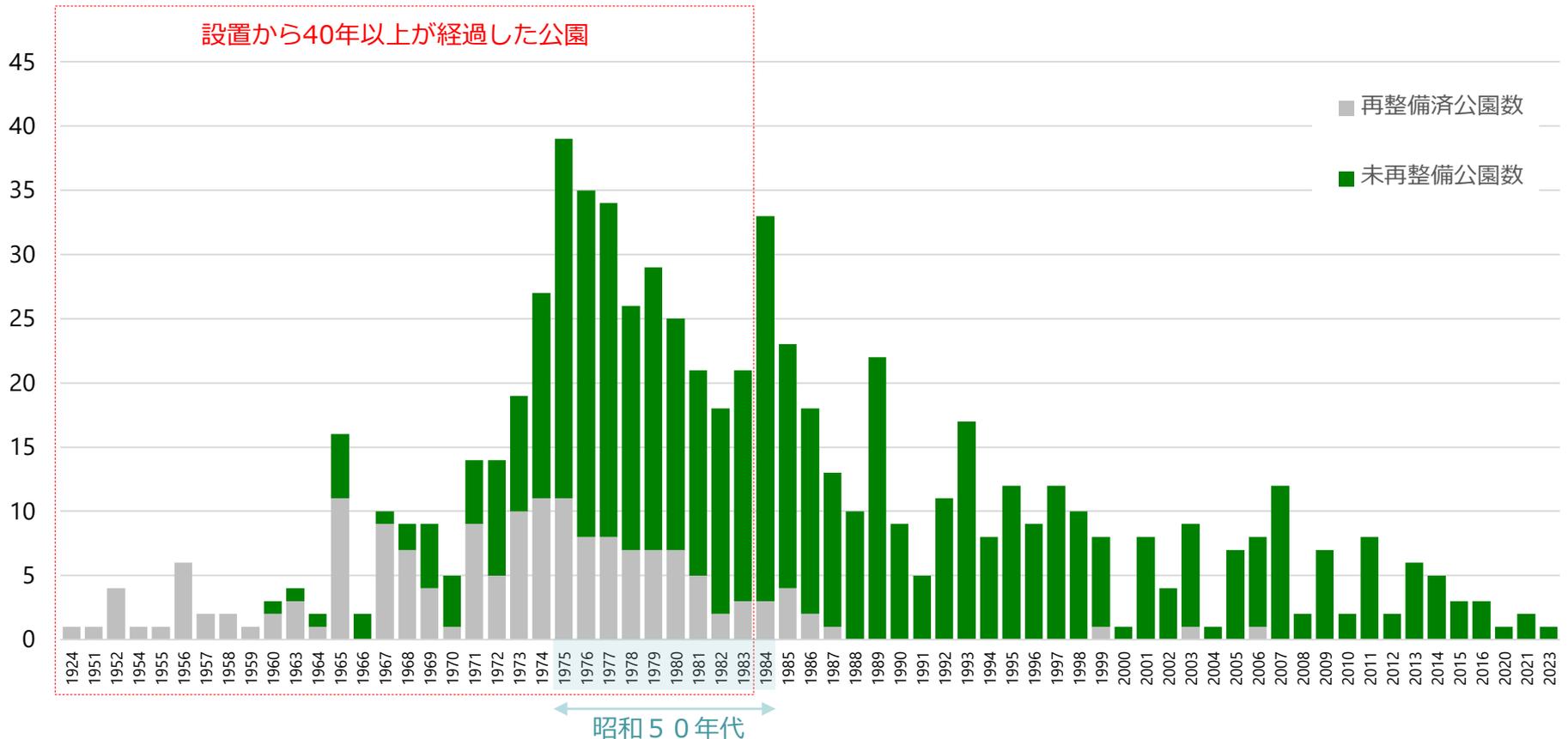


■ 政令市における1人あたり公園面積

(R5.4.1)

順位	都市名	箇所数	都市公園等面積(ha)	1人あたり公園面積(m <sup>2</sup> /人)
1	神戸市	1,696	2,651	17.6
2	岡山市	467	1,147	16.7
3	仙台市	1,848	1,685	15.4
4	札幌市	2,742	2,502	12.7
4	北九州市	1,720	1,192	12.7
6	新潟市	1,442	839	10.9
7	千葉市	1,178	993	10.2
8	熊本市	1,094	717	9.8
9	福岡市	1,702	1,439	8.8
10	堺市	1,193	713	8.7
11	浜松市	533	467	8.4
12	広島市	1,180	926	8.0
13	名古屋市	1,507	1,643	7.1
14	静岡市	533	467	7.0
15	さいたま市	1,013	673	5.0
15	相模原市	637	361	5.0
17	横浜市	2,719	1,867	4.9
18	京都市	956	675	4.7
19	川崎市	1,183	609	4.0
20	大阪市	995	961	3.5

# 福岡市の公園整備について



・昭和49年に福岡市が政令指定都市に指定されたことから、高度経済成長期の昭和50年代に、集中的に公園が設置されたが、それから40年以上が経過し、施設の老朽化が進んでいる。

→老朽化した公園ストックを魅力ある公園、市民ニーズに合った公園へと整備することで、公園利用者の増加や、公園や緑に親しみを感じる市民の割合、安全に公園を利用できると感じる市民の割合を高める

# 各整備計画と緑の基本計画の関係について

## 整備計画

### 風格ある緑豊かな 環境共生都市・福岡

市民の豊かな生活空間や、市民が身近な緑や公園に親しみを持てるような空間を創造

- 福岡市緑地保全事業
- 福岡市グリーンインフラ事業
- 福岡市ストック再編事業

### 安全・安心を支える緑づくり (防災・安全)

誰もが安全・安心に公園を利用できる環境整備

- 都市公園事業（今津運動公園）
- 防災緑地緊急整備事業（西南杜の湖畔公園）

### 福岡市公園施設の 長寿命化の推進（防災・安全）

緑による都市の防災、減災対策を推進

- 福岡市公園施設長寿命化対策支援事業
- 福岡市公園施設長寿命化対策支援事業（5か年老朽）
- 福岡市公園施設長寿命化計画策定調査

## 福岡市 新・緑の基本計画

基本方向  
1

森の緑地環、緑の腕、博多湾水際帯を守り、つなぎます

基本方向  
2

山すそから海辺まで緑の水脈と緑のみちで結びます

基本方向  
3

九州・アジア新時代の交流地点にふさわしい個性と風格を、緑と歴史でつくります

基本方向  
4

心を癒し身近な生活に潤いをもたらす緑をつくります

基本方向  
5

福岡県西方沖地震等を教訓に、安全・安心を支える緑をつくります

基本方向  
6

市民・企業による主体的な緑のまちづくりを支えます

## 各計画の事業内容と成果について

- 計画名：風格ある緑豊かな環境共生都市・福岡
- 計画期間（交付期間）：令和2年度～令和6年度
- 全体事業費：828百万円

### 地域の現状・課題

#### ●市街地における保全系の緑の減少

福岡市では、緑の総量を維持するため、特別緑地保全地区などの指定を進めているが、田畑などの農地は開発により減少傾向にある。

#### ●身近な緑への評価

地域の公園の老朽化などにより、市民の身近な公園や緑に対する評価が低迷している。

#### ●地域の公園への親しみ

少子高齢化などの社会状況の変化や多様な市民ニーズへ応えられず、市民が身近な公園に対し親しみが感じられにくくなっている。

### 計画の目標

本市の「緑」に関する総合計画である「福岡市新・緑の基本計画」（平成21年5月策定）に基づき、緑地保全や新たな公園整備により緑を創出することで、福岡市域における緑の面積の総量を維持する。

また、これまでに蓄積した「ストック」を活かす視点を加えた「福岡市みどり経営方針」を着実に推進するため、供用後年数の経過や、周辺環境などの変化に伴い、地域のニーズに対応できなくなった公園などの「みどりストック」について、地域のニーズを踏まえてリニューアルなどすることで、地域活動の拠点としての利活用を図り、市民が身近な緑や公園に親しみを持てるまちづくりを進める。

# 計画①

## 風格ある緑豊かな環境共生都市・福岡

### 事業箇所

計画期間	令和2年度～令和6年度	交付期間	令和2年度～令和6年度	全体事業費	828百万円
------	-------------	------	-------------	-------	--------

香椎アイランド線、アイランド西2号線、  
アイランド西3号線 明治公園  
吉塚梅香公園

#### A-1 福岡市緑地保全等事業

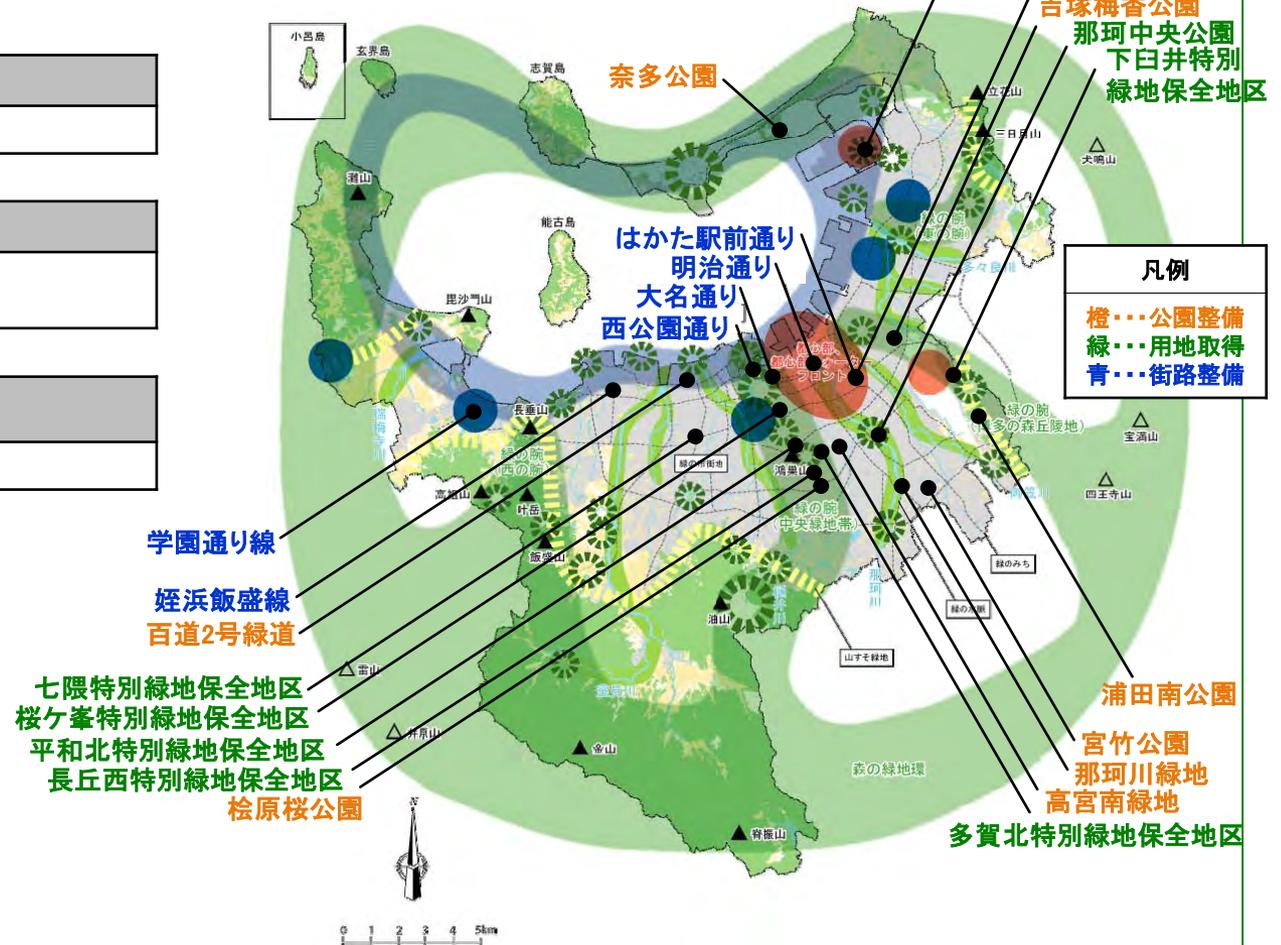
土地の買入れ、土砂崩壊防止施設等整備

#### A-2 福岡市グリーンインフラ事業

都市公園等の用地取得・整備、  
街路空間・公共施設等の整備

#### A-3 福岡市ストック再編事業

施設整備、用地購入



成果指標の達成状況一覧

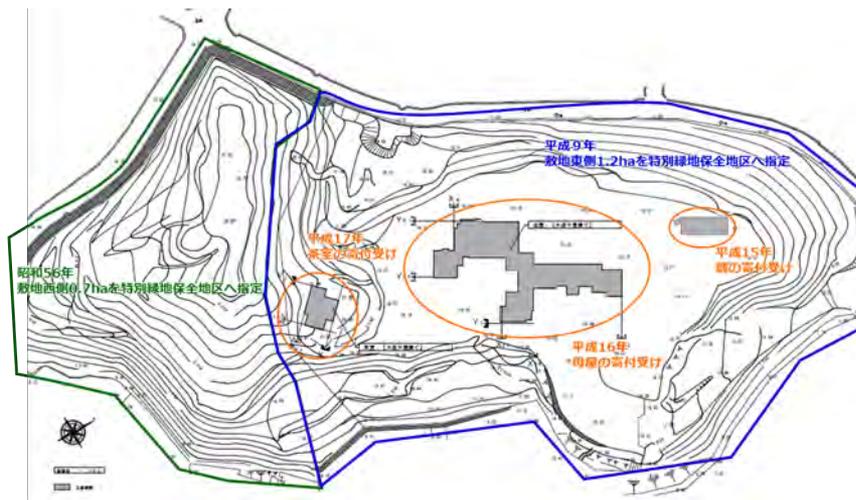
定量的指標の現況値及び目標値

成果指標	算定根拠	当初現況値	目標値	実績値
		R2年度当初	R6年度末	R6年度末
① 福岡市域における緑被面積	福岡市緑の基礎調査による	18,920ha	18,920ha	18,984ha ※R4年度
② 身近な地域において緑が豊かであると感じている市民の割合	福岡市基本計画の成果指標に関する意識調査による	30%	55%	31.0% ※R5年度
③ 福岡都心部における緑被面積	福岡市緑の基礎調査による	97ha	105ha	100ha ※R4年度
参考 身近な公園の緑が豊かであると感じている市民の割合	福岡市基本計画の成果指標に関する意識調査による	77%	-	81.3% ※R5年度

整備効果事例

A-1 福岡市緑地保全等事業

○民活導入による緑地整備の例(高宮南緑地)

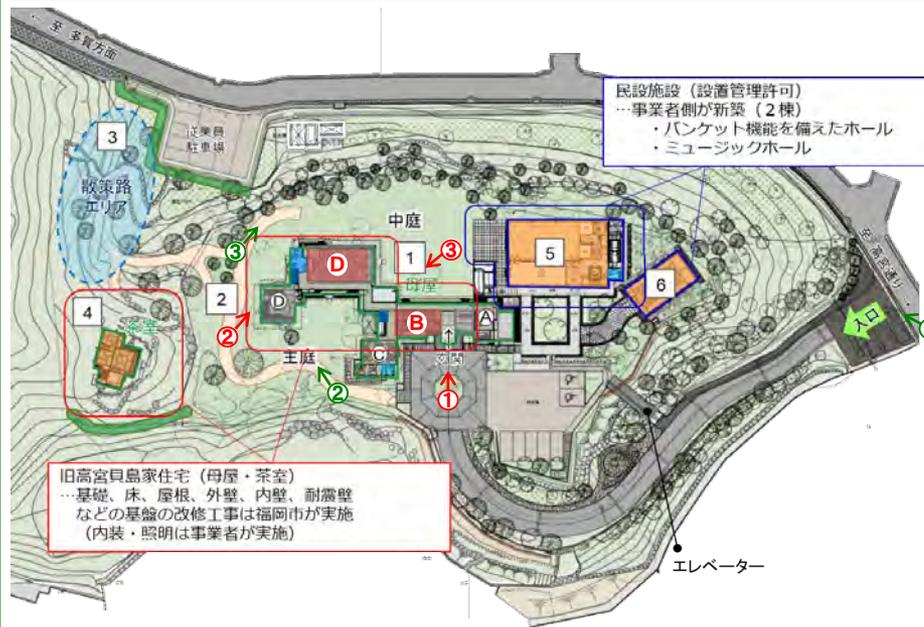


歴史的建築物及び特別緑地保全地区の活用を図るため、民間活力を導入し、市民に親しまれるとともに、来街者へのもてなしや交流、癒しの場として、施設整備・運営管理を実施した。

# 計画①

## 風格ある緑豊かな環境共生都市・福岡

### 整備効果事例



姉妹都市締結40周年を記念して来福した  
 ボルドー市長をはじめとした訪問団への  
 おもてなしの場としても活用(R4.5月)。



整備効果事例

A-3 福岡市ストック再編事業

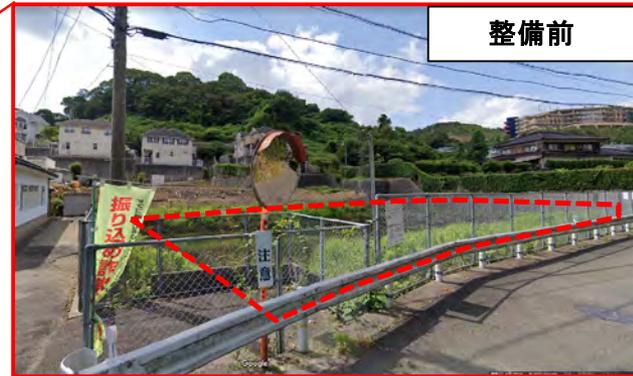
○公園の統廃合による再整備の例



浦田1号公園  
※919㎡

笹々良ヶ浦池  
(公園予定地)  
※916㎡

浦田4号公園  
※392㎡



整備前



整備イメージ

不整形、面積が小さい等の課題がある公園(浦田1号公園、浦田4号公園)を廃止、公園機能を集約し、地域に親しまれる新たな公園(浦田南公園)を整備。

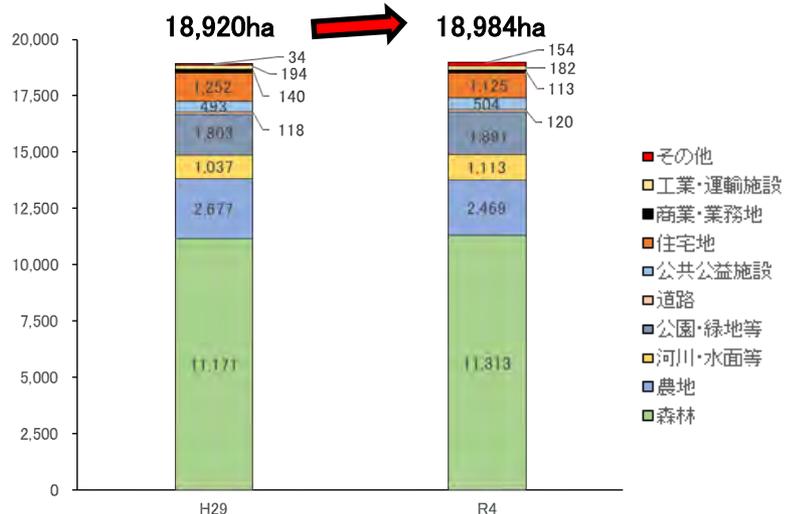
※R6末整備完了予定

成果指標の達成状況の分析

定量的指標の現況値及び目標値

成果指標	算定根拠	当初現況値	目標値	実績値
		R2年度当初	R6年度末	R6年度末
① 福岡市域における緑被面積	福岡市緑の基礎調査による	18,920ha	18,920ha	18,984ha ※R4年度
③ 福岡都心部における緑被面積	福岡市緑の基礎調査による	97ha	105ha	100ha ※R4年度

福岡市域における緑被面積については、当初現況値を上回り、達成できている。一方で、福岡都心部における緑被面積は、当初現況値を上回っており、都心部での公園や街路樹の整備などにより、一定の成果が出ていると考えられるものの、目標値には達成できていない。引き続き、公園・街路樹整備に取り組むとともに、令和5年2月に始動した「都心の森1万本プロジェクト」を推進することで、みどり豊かな都市空間の創出に取り組む必要がある。

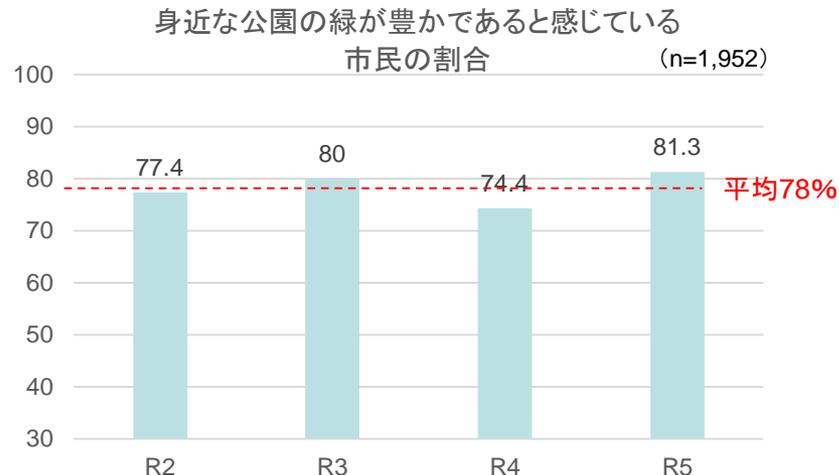
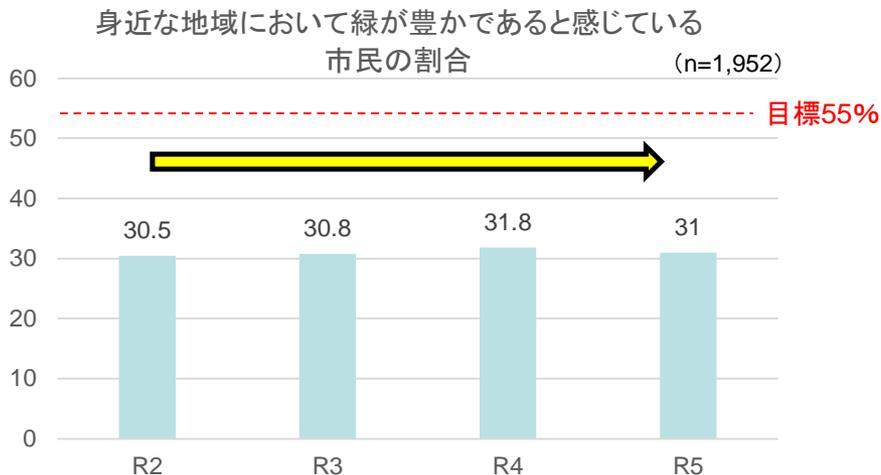


成果指標の達成状況の分析

定量的指標の現況値及び目標値

成果指標	算定根拠	当初現況値	目標値	実績値
		R2年度当初	R6年度末	R6年度末
② 身近な地域において緑が豊かであると感じている市民の割合	福岡市基本計画の成果指標に関する意識調査による	30%	55%	31.0% ※R5年度
参考 身近な公園の緑が豊かであると感じている市民の割合	福岡市基本計画の成果指標に関する意識調査による	77%	-	81.3% ※R5年度

「身近な地域において緑が豊かであると感じている市民の割合」について、身近な地域の緑とは、身近に緑地や公園、街路樹があるか否かによって回答が左右されるものであることから、公園整備等は進めているものの横ばいとなっていると考えられる。なお、過去4か年で「身近な公園の緑が豊かである」とおおむね8割の市民から評価されており、公園や街路樹整備による一定の成果が出ているものと考えられる。

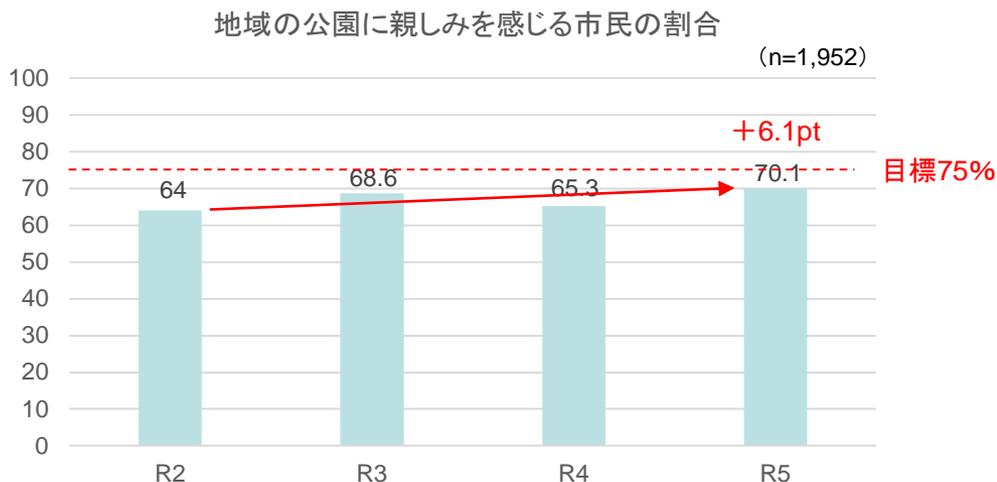


成果指標の達成状況の分析

定量的指標の現況値及び目標値

成果指標	算定根拠	当初現況値	目標値	実績値
		R2年度当初	R6年度末	R6年度末
④ 地域の公園に親しみを感じている市民の割合	福岡市基本計画の成果指標に関する意識調査による	64%	75%	70.1% ※R5年度

公園設置から年数が経ち更新期を迎えるなど、再整備すべき公園が増加している中で、一部の公園しか整備できていない状況であることから、目標値に達することはできていないが、ワークショップ等を開催し、地域ニーズを反映させながら整備を行っていることから、「地域の公園に親しみを感じる市民の割合」は当初現況値より6.1ポイント増となっていると考えられる。



▲ワークショップの様子



# 計画①

## 風格ある緑豊かな環境共生都市・福岡

### 事業箇所

計画期間	令和2年度～令和6年度	交付期間	令和2年度～令和6年度	全体事業費	828百万円
------	-------------	------	-------------	-------	--------

#### A-1 福岡市緑地保全等事業

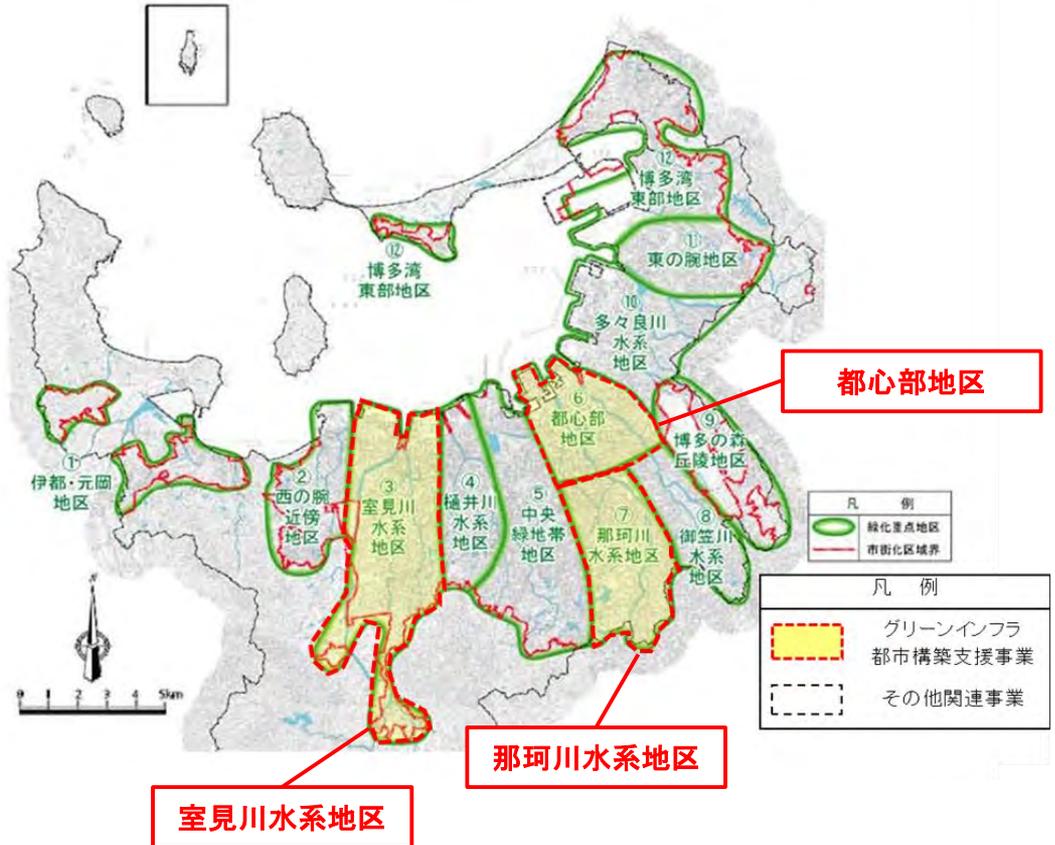
土地の買入れ、土砂崩壊防止施設等整備

#### A-2 福岡市グリーンインフラ事業

都市公園等の用地取得・整備、  
街路空間・公共施設等の整備

#### A-3 福岡市ストック再編事業

施設整備、用地購入



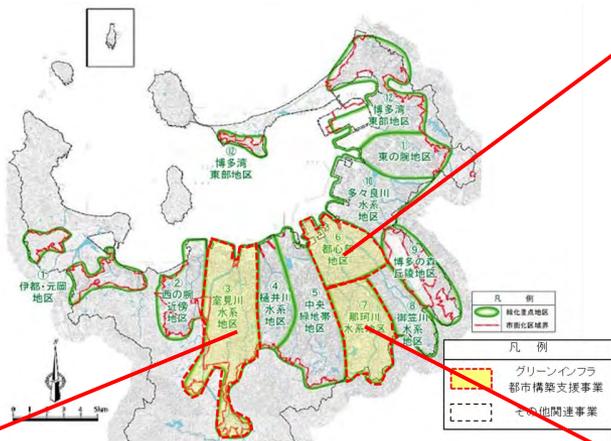
成果指標の達成状況一覧（グリーンインフラ）

定量的指標の現況値及び目標値

成果指標	算定根拠	当初現況値	目標値	実績値	
		R2年度当初	R6年度末	R6年度末	
室見川水系地区	①市民一人あたりの都市公園面積	意識調査	8.69m <sup>2</sup> /人	10m <sup>2</sup> /人	8.75m <sup>2</sup> /人 ※R5年度
	②地域の公園に親しみを感じている市民の割合	意識調査	64%	75%	70.1% ※R5年度
	③スポーツをする場や機会が身近にあると感じる市民の割合	意識調査	56.1%	70%	58.1% ※R5年度
那珂川水系地区	④スポーツをする場や機会が身近にあると感じる市民の割合	意識調査	56.1%	70%	58.1% ※R5年度
	⑤身近な地域において緑が豊かであると感じている市民の割合	意識調査	31%	55%	31.0% ※R5年度
	⑥下水道施設への負荷軽減に資する公園緑地等の整備面積	整備実績	0m <sup>2</sup>	50,000m <sup>2</sup>	11,784m <sup>2</sup> 予定
都心部地区	⑦福岡市都心部における緑被面積	基礎調査	97ha	105ha	100ha ※R4年度
	⑧福岡市都心部における緑被率	基礎調査	10.6%	11.0%	10.9% ※R4年度
	⑨都心部において花や緑が豊かであると感じている市民の割合	市政アンケート	26%	50.0%	52.8% ※R3年度

整備効果事例

A-2 福岡市グリーンインフラ事業



都心部地区(はかた駅前通り)

○街路樹整備の例



歩行者量の多い都心部において、地下鉄延伸開業に合わせた街路樹整備を実施。

室見川水系地区(百道2号緑道)

○地域要望による再整備の例



地域要望(排水向上、土舗装等)に対し、自然が持つ地下浸透機能を活かした整備を実施。

那珂川水系地区(那珂川緑地)

○護岸整備に合わせた拡張整備の例



那珂川沿いの緑地において、県が実施する護岸整備に合わせた拡張整備を実施。

成果指標の達成状況の分析（グリーンインフラ）

定量的指標の現況値及び目標値

成果指標	算定根拠	当初現況値	目標値	実績値	指標の分析	
		R2年度当初	R6年度末	R6年度末		
室見川水系地区	①市民一人あたりの都市公園面積	意識調査	8.69m <sup>2</sup> /人	10m <sup>2</sup> /人	8.75m <sup>2</sup> /人 ※R5年度	①について、公園整備は進めているものの福岡市の人口増により、実績値は伸び悩んでいる。また、③はほぼ横ばいで推移しており、ソフトと一体となった事業展開が必要。  ⑥について、県の護岸整備の影響を受け、工事範囲が縮小したことなどにより、目標値には達することができなかった。引き続き、関係者との調整を図りながら、事業を進める。
	②地域の公園に親しみを感じている市民の割合	意識調査	64%	75%	70.1% ※R5年度	
	③スポーツをする場や機会が身近にあると感じる市民の割合	意識調査	56.1%	70%	58.1% ※R5年度	
那珂川水系地区	④スポーツをする場や機会が身近にあると感じる市民の割合	意識調査	56.1%	70%	58.1% ※R5年度	
	⑤身近な地域において緑が豊かであると感じている市民の割合	意識調査	31%	55%	31.0% ※R5年度	
	⑥下水道施設への負荷軽減に資する公園緑地等の整備面積	整備実績	0m <sup>2</sup>	50,000m <sup>2</sup>	11,784m <sup>2</sup> (予定)	
都心部地区	⑦福岡市都心部における緑被面積	基礎調査	97ha	105ha	100ha ※R4年度	目標値には達していないものの、着実に⑦⑧は増加している。一方で、⑨の実績が大幅に増加したのは、「一人一花運動」の推進による影響も考えられる。
	⑧福岡市都心部における緑被率	基礎調査	10.6%	11.0%	10.9% ※R4年度	
	⑨都心部において花や緑が豊かであると感じている市民の割合	市政アンケート	26%	50.0%	52.8% ※R3年度	

- 計画名：安全・安心を支える緑づくり（防災・安全）
- 計画期間：令和2年度～令和6年度
- 全体事業費：99百万円

## 地域の現状・課題

## ●避難場所としての公園の不足

福岡市では、地域防災計画において地区避難場所や広域避難場所として、多くの公園が指定されているが、その避難場所までの距離が遠い地域等が存在しており、近くの距離にある避難場所が不足している。

## 計画の目標

安全・安心で良好な生活環境の確保を目指して、市民ニーズに対応した身近な都市基盤の整備を進めるとともに、避難場所となる公園の用地確保や安全・安心に避難できる園路広場などの整備を行う。

# 計画②

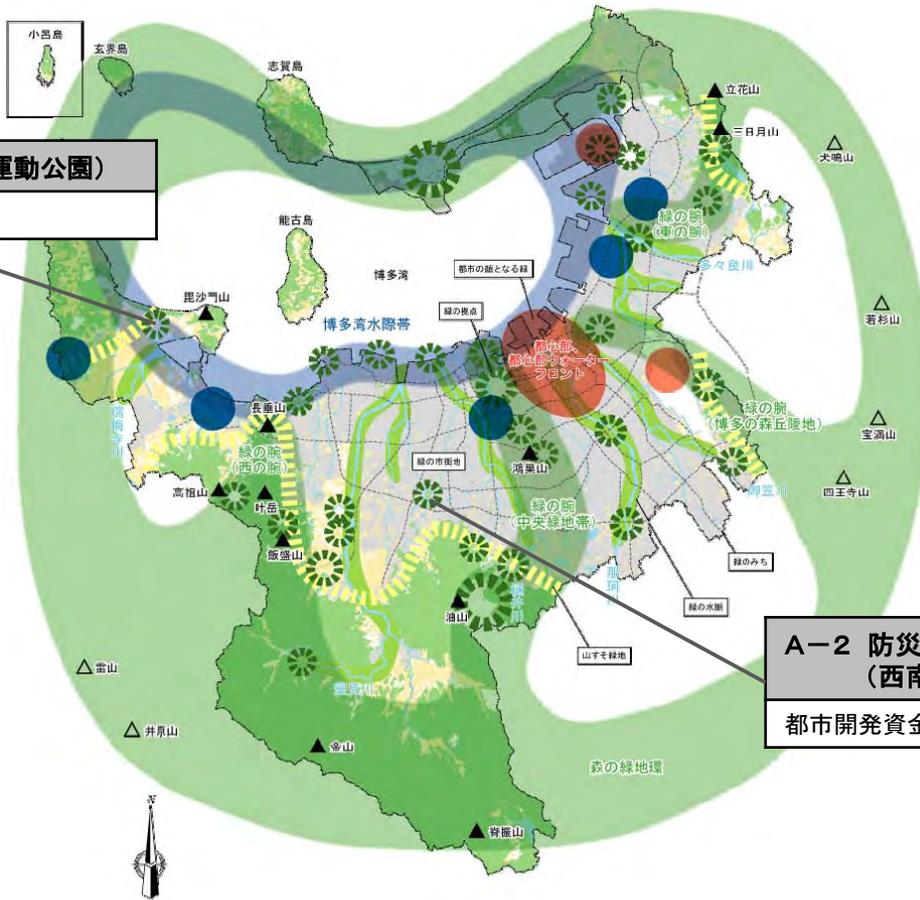
## 安全・安心を支える緑づくり（防災・安全）

### 事業箇所

計画期間	令和2年度～令和6年度	交付期間	令和2年度～令和3年度	全体事業費	99百万円
------	-------------	------	-------------	-------	-------

**A-1 都市公園事業(今津運動公園)**  
野球場整備等

**A-2 防災緑地緊急整備事業  
(西南杜の湖畔公園)**  
都市開発資金償還



成果指標の達成状況一覧

定量的指標の現況値及び目標値

成果指標	算定根拠	当初現況値	目標値	実績値
		R 2 年度当初	R 6 年度末	R 6 年度末
① 地域の防災対策が充実していると感じる市民の割合	福岡市基本計画の成果指標に関する意識調査による	39%	50%	42.8% ※R5年度
参考 西区・城南区において地域の防災対策が充実していると感じる市民の割合	福岡市基本計画の成果指標に関する意識調査による	40%	-	43.6% ※R5年度

整備効果事例

A-1 都市公園事業（今津運動公園 所在地：福岡市西区今津）

○野球場整備等

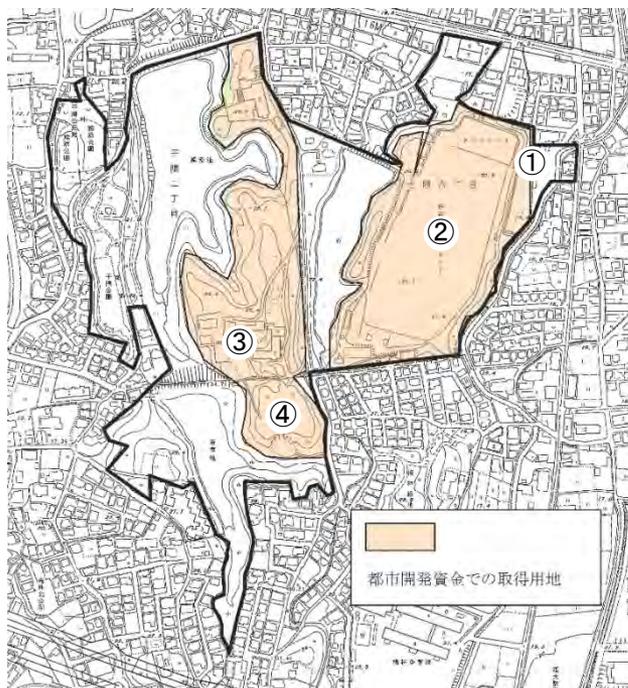


今津運動公園の拡張部分における未整備部分（園路広場）の整備を行い、野球場と外構工事について、全ての工事が完了した。今津運動公園は広域避難場所に指定されており、有事の際は、緊急的に避難される場所として活用される。

整備効果事例

A-2 防災緑地緊急整備事業（西南杜の湖畔公園 所在地：福岡市城南区七隈六丁目 外）

○都市開発資金償還



用地取得の一部に都市開発資金を活用して行った西南杜の湖畔公園について、令和3年度に償還が完了した。西南杜の湖畔公園は広域避難場所に指定されており、有事の際は、緊急的に避難される場所として活用される。

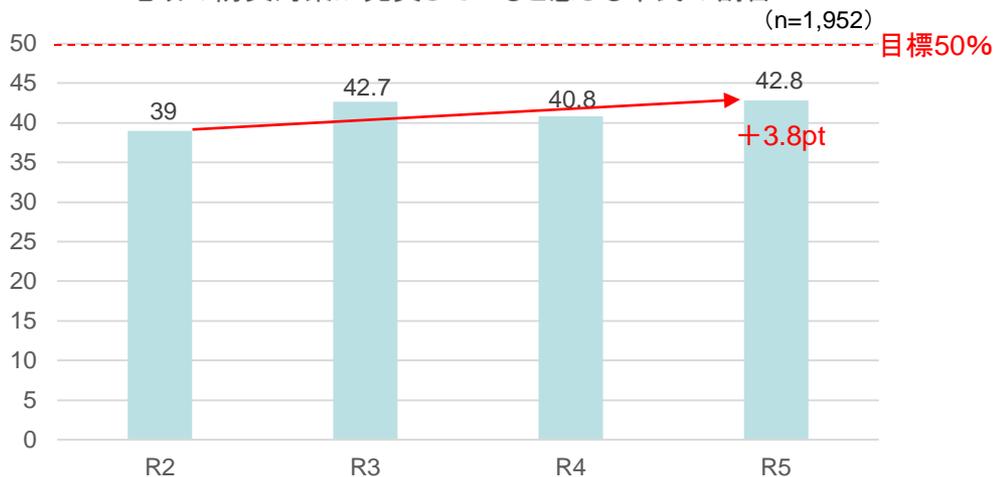
成果指標の達成状況の分析

定量的指標の現況値及び目標値

成果指標	算定根拠	当初現況値	目標値	実績値
		R2年度当初	R6年度末	R6年度末
① 地域の防災対策が充実していると感じる市民の割合	福岡市基本計画の成果指標に関する意識調査による	39%	50%	42.8% ※R5年度
参考 西区・城南区において地域の防災対策が充実していると感じる市民の割合	福岡市基本計画の成果指標に関する意識調査による	40%	-	43.6% ※R5年度

「地域の防災対策が充実していると感じる市民の割合」について、目標値には達していないものの、計画当初よりも3.8ポイント増となっており、着実にアンケートの割合を伸ばしている。地域の防災対策とは、公園整備だけでなくソフト面での整備も含まれるため、今後はソフトと一体となった事業展開が必要。

地域の防災対策が充実していると感じる市民の割合



▲DIGの様子  
(今津運動公園)

D isaster (災害)  
I magination (想像力)  
G ame (ゲーム)

- 計画名：福岡市公園施設の長寿命化の推進（防災・安全）
- 計画期間（交付期間）：令和2年度～令和6年度
- 全体事業費：1,705百万円

## 地域の現状・課題

## ●施設の老朽化による危険性の高まり

福岡市では、公園内の遊具等の老朽化が進み、利用者にとって危険であるとともに、地震や大雨等の災害発生時、また通常の維持管理面においても早急な対応が求められている。

## ●子どもの遊び場の安全対策の不足

老朽化した施設の更新などを行うことで、子どもの遊び場としての安全対策を実施する必要がある。

## 計画の目標

誰もが、安全・安心に公園を利用できる環境整備を行うため、公園施設長寿命化計画を踏まえた既存施設の計画的な維持管理・更新を図る。

# 計画③

## 福岡市公園施設の長寿命化の推進（防災・安全）

### 事業箇所

計画期間	令和2年度～令和6年度	交付期間	令和2年度～令和6年度	全体事業費	1,705百万円
------	-------------	------	-------------	-------	----------

#### A-1 福岡市公園施設長寿命化対策支援事業

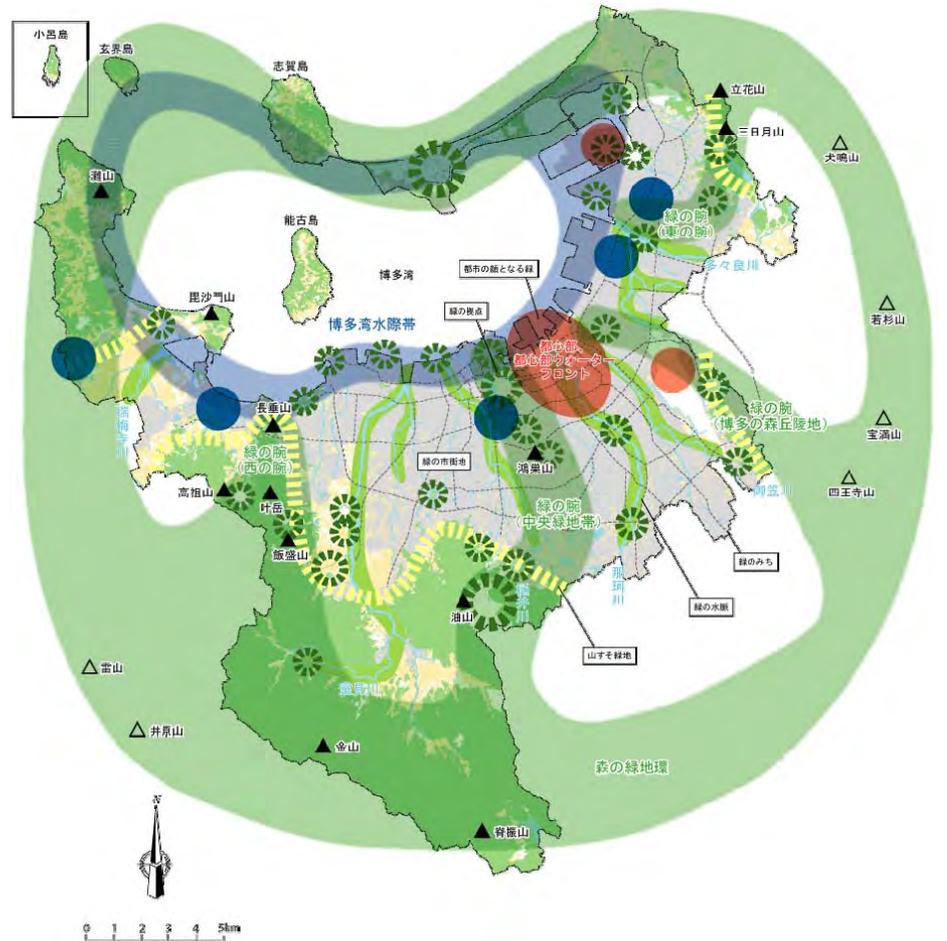
公園施設改修

#### A-2 福岡市公園施設長寿命化対策支援事業 (5か年老朽)

公園施設改修

#### A-3 福岡市公園施設長寿命化計画策定調査

計画策定



### 計画③

## 福岡市公園施設の長寿命化の推進（防災・安全）

### 成果指標の達成状況一覧

#### 定量的指標の現況値及び目標値

成果指標	算定根拠	当初現況値	目標値	実績値
		R2年度当初	R6年度末	R6年度末
① 地域の公園で子どもが安心して遊べると感じている市民の割合	福岡市基本計画の成果指標に関する意識調査による	67%	75%	73.0% ※R5年度
② 公園施設の改修を行う公園	整備実績による	0公園	900公園	938公園 (予定)

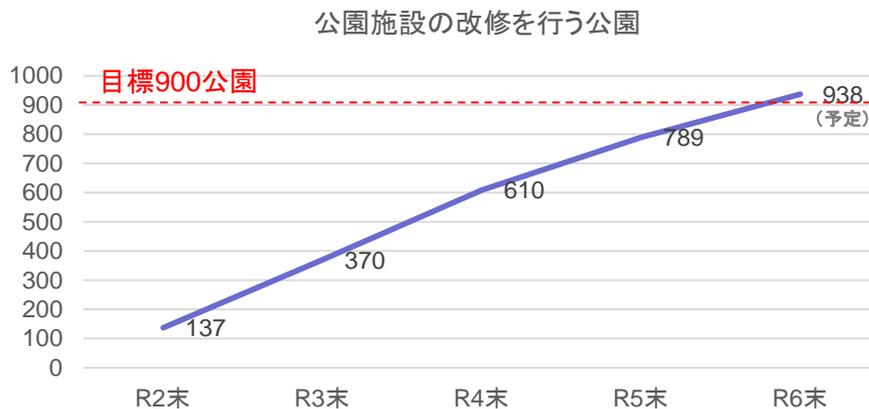
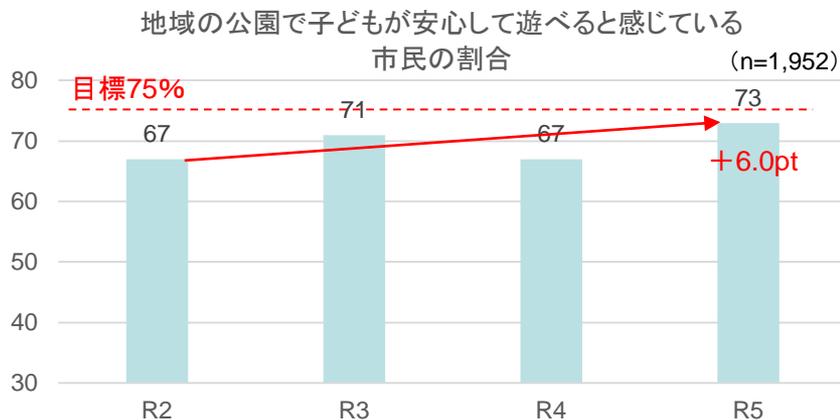


成果指標の達成状況の分析

定量的指標の現況値及び目標値

成果指標	算定根拠	当初現況値	目標値	実績値
		R2年度当初	R6年度末	R6年度末
① 地域の公園で子どもが安心して遊べると感じている市民の割合	福岡市基本計画の成果指標に関する意識調査による	67%	75%	73.0% ※R5年度
② 公園施設の改修を行う公園	整備実績による	0公園	900公園	938公園 (予定)

「地域の公園で子どもが安心して遊べると感じている市民の割合」について、施設設置から年数が経ち更新期を迎えるなど、改修すべき公園施設が増加している中で、予算の制約もあって一部の公園施設にしか着手できていない状況であることから、目標値に達することはできていないが、計画当初よりも6.0ポイント増となっており、目標値以上の公園数の改修に取り組むなど、着実な公園施設の改修により、一定の成果が出ているものと考えられる。



# 成果指標の達成状況まとめ

計 画	成果指標	①当初 (R2)	②目標値 (R6末)	③実績値 (R6末)	
風格ある緑豊かな環境共生都市 ・福岡	福岡市域における緑被面積	18,920ha	18,920ha	<b>18,984ha</b> ※R4年度	
	身近な地域において緑が豊かであると感じている市民の割合	30%	55%	<b>31.0%</b> ※R5年度	
	福岡都心部における緑被面積	97ha	105ha	<b>100ha</b> ※R4年度	
	地域の公園に親しみを感じている市民の割合	64%	75%	<b>70.1%</b> ※R5年度	
グリーンインフラ事業	室見川水系地区	市民一人あたりの都市公園面積	8.69㎡/人	10㎡/人	<b>8.75㎡/人</b> ※R6.4.1
		地域の公園に親しみを感じている市民の割合	64%	75%	<b>70.1%</b> ※R5年度
		スポーツをする場や機会が身近にあると感じる市民の割合	56.1%	70%	<b>58.1%</b> ※R5年度
那珂川水系地区	スポーツをする場や機会が身近にあると感じる市民の割合	56.1%	70%	<b>58.1%</b> ※R5年度	
	身近な地域において緑が豊かであると感じている市民の割合	31%	55%	<b>31.0%</b> ※R5年度	
	下水道施設への負荷軽減に資する公園緑地等の整備面積	0㎡	50,000㎡	<b>11,784㎡</b> (予定)	
都心部地区	福岡市都心部における緑被面積	97ha	105ha	<b>100ha</b> ※R4年度	
	福岡市都心部における緑被率	10.6%	11.0%	<b>10.9%</b> ※R4年度	
	都心部において花や緑が豊かであると感じている市民の割合	26%	50.0%	<b>52.8%</b> ※R3年度	
安全・安心を支える緑づくり (防災・安全)	地域の防災対策が充実していると感じる市民の割合	39%	50%	<b>42.8%</b> ※R5年度	
福岡市公園施設の長寿命化の推進 (防災・安全)	地域の公園で子どもが安心して遊べると感じている市民の割合	67%	75%	<b>73.0%</b> ※R5年度	
	公園施設の改修を行う公園	0公園	900公園	<b>938公園</b> (予定)	

# 成果指標の達成状況まとめ

## 風格

○福岡市域における緑被面積については、当初現況値を上回り、達成できている。一方で、福岡都心部における緑被面積は、当初現況値を上回っており、都心部での公園や街路樹の整備などにより、一定の成果が出ていると考えられるものの、目標値には達成できていない。引き続き、公園・街路樹整備に取り組むとともに、令和5年2月に始動した「都心の森1万本プロジェクト」を推進することで、みどり豊かな都市空間の創出に取り組む必要がある。

○「身近な地域において緑が豊かであると感じている市民の割合」について、身近な地域の緑とは、身近に緑地や公園、街路樹があるか否かによって回答が左右されるものであることから、公園整備等は進めているものの横ばいとなっていると考えられる。なお、過去4か年で「身近な公園の緑が豊かである」とおおむね8割の市民から評価されており、公園や街路樹整備による一定の成果が出ているものと考えられる。

○公園設置から年数が経ち更新期を迎えるなど、再整備すべき公園が増加している中で、一部の公園しか整備できていない状況であることから、目標値に達することはできていないが、ワークショップ等を開催し、地域ニーズを反映させながら整備を行っていることから、「地域の公園に親しみを感じる市民の割合」は当初現況値より6.1ポイント増となっていると考えられる。

## グリーンインフラ

○「市民一人あたりの都市公園面積」について、公園整備は進めているものの福岡市の人口増により、実績値は伸び悩んでいる。また、「スポーツをする場や機会が身近にあると感じる市民の割合」はほぼ横ばいで推移しており、ソフトと一体となった事業展開が必要。

○「下水道施設への負荷軽減に資する公園緑地等の整備面積」について、県の護岸整備の影響を受け、工事範囲が縮小したことなどにより、目標値には達することができなかった。引き続き、関係者との調整を図りながら、事業を進める。

○目標値には達していないものの、着実に「福岡市都心部における緑被面積」「福岡市都心部における緑被率」は増加している。一方で、「都心部において花や緑が豊かであると感じている市民の割合」の実績が大幅に増加したのは、「一人一花運動」の推進による影響も考えられる。

## 安心・安全

○「地域の防災対策が充実していると感じる市民の割合」について、目標値には達していないものの、計画当初よりも3.8ポイント増となっており、着実にアンケートの割合を伸ばしている。地域の防災対策とは、公園整備だけでなくソフト面での整備も含まれるため、今後はソフトと一体となった事業展開が必要。

## 長寿命

○「地域の公園で子どもが安心して遊べると感じている市民の割合」について、施設設置から年数が経ち更新期を迎えるなど、改修すべき公園施設が増加している中で、予算の制約もあって一部の公園施設にしか着手できていない状況であることから、目標値に達することはできていないが、計画当初よりも6.0ポイント増となっており、目標値以上の公園数の改修に取り組むなど、着実な公園施設の改修により、一定の成果が出ているものと考えられる。